

# 図書館 本だけじゃない

朝日新聞 12(H24) . 8. 6

## 子供の悩み相談・講演会も企画

図書館は本を借りる場所というイメージが変わってきている。必ずしも本の貸し出しにはかわらない新サービスも目立つ。図書館の役割が問い直されている。

5月、レンタル大手「UTS」が佐賀県武雄市の市立図書館の運営を任せられる計画が発表された。館内にはカフェや文房具店が設置され、国内4千万人が持つ会員カードが図書館カードとして使える。年中無休で開館時間も大幅に延ばすなど利用者の利便性を追求。市民が快適に使える空間を目指す。



話し合いは白熱し、時には思いあまって泣き出す子も＝長野県小布施町の町立図書館① ニューヨーク公共図書館の本館

「図書館は本を借りる場所」というイメージが変わってきている。必ずしも本の貸し出しにはかわらない新サービスも目立つ。図書館の役割が問い直されている。

「図書館は単なる建物じゃない。行けば何かあると思っ  
てもらうために図書館側から地域の人の生活に入っていく  
ています」と話すのは館長を  
務める映像作家の花井裕一郎  
さん(49)。元々取材先として



## 「問題解決力」に強み

### NY公共図書館

蔵書など6500万点以上のコレクションを誇り、観光客でもにぎわうニューヨーク公共図書館も、地域社会で求められる「問題解決力」を誇る。充実した司書機能や膨大なアーカイブを利用者に提供するほか、貿易や特許から生活情報まで講座を多数開いている。

ここの資料をもとに、ゼロックスのコピー機やポラロイドカメラが生み出された。利用していたサウスカロライナ大3年のニール・ジェイコブズさん(20)は「困ったらここに来て相談すればいい。ニューヨーカーなら誰でも知ってるよ」と話す。

訪れていた小布施町の魅力にひかれて移住。2009年夏、文化創造の拠点として約4億円を使ってつくられた新しい図書館の館長になった。町民有志らで運営方針を決めるやり方で地域のニーズを掘り起こし、数多くのイベントを図書館から仕掛ける。プロのアーティストによる子ども向けの「美術部」や大人向けの講演会も。年2回は図書館を飛び出し、地元の寺や街中での古本市にもかわる。

大都市中心に1960年代まで数多くあった貸本屋では、店主が地域の「何でも相談係」の役割を果たしていた。一方、60年代後半から公共図書館の建設が各地で本格化。70年に有識者らがまとめた「市民の図書館」では「市民の求める図書館を気軽に貸し出す」のが図書館の基本と明記。「貸し出し中心主義」が根付いてきた。

大串教授は「具体的なあり方は地域のニーズによって異なるが、今の図書館は、地方の住民が生活していくうえで不可欠な情報拠点になれるかが問われる。今後は、自前の資料とどうかかわらせるかが課題だ」と語る。(高久潤)